

悠久の河

『紀行』

周藤彌兵衛翁物語

イザナミのお墓

健全な水循環の維持・回復を目的とする「水循環基本法」制定後初の「水の日」、二〇一四年八月一日、意宇川の流れを変えた治水の偉人・周藤彌兵衛翁の大銅像（高さ二・六五メートル、幅二・八メートル、奥行一・七メートル）の除幕式が行われた。建立地は、彌兵衛翁が開削した剣山の切り通しから五〇〇メートルほど上流にある島根県松江市八雲町の日吉親水公園傍。

意宇川を挟んだその対岸には、地元の人々が「御陵」と呼ぶ「岩坂陵墓参考地」がある。

陵墓とは皇族のお墓とされる古墳のことで、この「御陵」は径約二〇メートルの円墳とされている。案内板には、「イザナミノミコトの御神陵であり、明治二十三年、宮内省が全国十数力所の伝説地中、保存すべきものとして陵墓伝説地に指定、現在宮内庁が管理している」とある。

『古事記』によれば、イザナミノミコトは夫・イザナギノミコトとともに、日本列島を創造し、日本人の祖先となる神々を生んだ「国生み」の神様とされている。そのお墓があるということとは、島根県内には他にも、イザナミという名の集落や、イザナミ川と呼ばれる川があることと合わせて、日本と日本人の原点と称えられるような「有力者」が、この地に存在したことをうかがわせる。



イザナミ御陵

画 寺戸良信

御陵のある神納山（かんなさん）は、イザナミが自らの魂を納めたことから名づけられたと伝えられている。この山と剣山は、かつてひと連なりであったと思われる。

亡くなったイザナミを慕って死者の世界である地下の黄泉国（よみのくに）に行ったイザナギは、己の醜い姿を見られたイザナミの怒りがかい、黄泉国の軍勢に追い掛けられ、それを剣を振るって追い払った。『古事記』にそう記されている、剣を抜いた場所が剣山であり、黄泉国につながる洞窟があるとも伝えられている。

山頂には、イザナミを主祭神とする剣神社がある。本殿の千木の先端が、前は男神を示す外削ぎ（地面に対して垂直）、後ろは女神を示す内削ぎ（水平）になっている、極めて珍しい神社である。彌兵衛翁の屋敷跡から近く、翁もしばしば参拝したと思われる。

また、御陵の対岸、日吉親水公園付近の堤は、戦地に赴く若者を見送った所でもあるという。翁の銅像は、古来、人々が祈りを捧げるために集った空間に建立されたのである。

こうしたさまざまな神話、伝承に彩られた八雲は、絶えることない水と、太古からの時が流れ、そして人々の念（おも）いと魂が連綿と流れ続ける「悠久の河」が貫く地であり、夢の湧く未来に向かう原点として最もふさわしい。